

## 総会報告

3/12 出席者 32 名、委任状 43 名の過半数をもって総会が開催され、報告、審議の結果以下の通り承認されました。

## 1. 2005 会計報告

先に送付済みであるが、昨年度は¥15000 くらいの赤字繰越となり、05 年度も赤字が続くようでしたら会費の値上げも検討されるところでしたが、自転車操業ながら何とかトントンで収まる気配で値上げは見送りとなった。これはネットの活用とメール便使用による送料の削減と、コピー場所の変更による削減が大きく皆様のご協力の賜物です。厚く御礼申し上げます。なお次年度繰越の¥200000 弱は遅れている会報 NO. 48 の印刷代です。以上の通り承認されました。

2. 2005 例会内容、行事報告に次いで今年度の行事予定が披露された。春の山菜ギフ（4/15…16 で実施済み）夏の合宿は 8 月頃を予定する。6. 12 月例会はセリ会

3. 当会は 2007. 4 に創立 30 周年を迎えます。それを記念してネットで蓄積した東京都の蝶データ集を発行することに決まっておりましたが、A4. 90…120P. 300 部程度で 3 月中旬頃刊行予定、詳細は IT と編集のからみで煮詰める（基金は現在¥140000 弱、後 2 回のセリ会で増予定）なお、データの集積は 12 月末をもっていったん終了とします。古い記録をお持ちの方は是非引っ張り出し纏めて、ML でご報告方宜しく願いいたします。

4. 会報の多摩虫も 30 周年と合わさるごとく近々 NO. 50 を迎えます。これを記念号としカラー使いの号とするため、号数あわせと予算捻出のため今年度 (NO. 49) と次年度 (NO. 50) は各 1 号の発行とすることが承認されました（4～5 月発行予定の昨年度の遅れの NO. 48 は別途）

5. 上記 30 周年記念出版物のほか予てより何か記念行事として、パーティーのようなものをやろうと言う話がありましたが今総会で正式にきまりました。しかし、現企画だけでは負担増となりすぎますので、別プロジェクトを立ち上げる必要があります、北川朝生、坂本洋典、中原真一氏の名が上がりプロジェクト委員として活躍していただくことになりました。プロジェクト委員はその 3 名に加え適宜、会長、企画 (1) 編集 (1) IT 等を加え 6～7 名となります。

以上が総会での決定事項ですが、終了後一人一話で楽しい時間をすごし PM. 4:00 頃解散になりましたが、2 次会へ回った方もかなりいたようです。

\* 第一回の 30 周年プロジェクト会議が 3 月末に開かれ 5 名の出席により、パーティーの骨子が決まりました。2007. 3. 11 (日) の PM を総会とし、その後、別場所で PM. 5:00

よりフロアでの立食パーティーとする（予算¥5000～8000）当初、基金による補助も考えた、負担が大きくなるので、基金はアトラクションの補助に回すことにしました。パーティーのみの参加も認めるが、必ず総会の委任状の提出を必定とする。その他詳細は今後随時決まってゆくと思いますが、いまから 2007. 3. 11 をあけておいてください。宜しく願いいたします。

\* 委任状に添えられた一言より（敬称略）

森本博：おはようございます。何時もお世話様です。不覚にも風のためダウンしております。当日の連絡にて恐縮です。

早乙女晨：大変ご無沙汰いたしております。術後一年目の検査のため短期入院いたしますので総会の決定に一任いたしたく宜しく願い申し上げます。

指田春喜：ご無沙汰いたしております。3/4.5 と上京しておりますが、12 日はどうしても時間がとれず、委任状を提出いたします。宜しくどうぞ。

坂本洋典：行けるかどうか五分五分なので提出しておきます。

斉藤軍二：12 日より沖縄に遠征しますので欠席させていただきます。

斉藤太増光：山形へ行きますので総会出席できません。

小山亜州加：生きております。そして元気です。実は多摩虫のメーリングリストはいつも楽しく拝見させていただいております（完全に ROM-Read Only Member）と化しております。坂本君にも常々‘書け’と脅かされているのですが…済みません…内定がきまりましたら、また例会やメーリングリストにも顔を出そうかと思っておりますので、それまでは暖かくみまもっていただければと思います。

岡田良一：なかなか行事に参加できずすみません。ML は私にとって教科書のように、色々勉強になります。ML にあった蝶類学会の青いフジミドリの表紙の会報の購入方を教えてください。宜しく願いいたします。

清水永寿：何時もお世話になります。昨日は大宮院セクトフェアで池沢さんが不在のためやや心細かったのですが、おかげさまで充実した一日を過ごすことができました。多摩虫の皆さんにも声をかけていただいて、普段メールで拝見する先輩方にお会いできてうれしかったです。

朝長政昭：3/10 より石垣島にゆきますので、今回は参加できません、どうぞ宜しく。

松井安俊：当日は秋田から一時帰郷はしているのですが、その日中に戻らなければならぬため時間が取れません。宜しく願いいたします。

小出雄一：本来ならば出席しなければならないのですが、生憎と当日はニュースデスク当番に当たっていますので出席できません。宜しく願いいたします。

遠藤茂：宜しく願いします。今年は採集日数をのばせそうです。

羽鳥信義：都合が付けば出席します。

\* 新入会員 (宜しくお願ひいたします)

大橋田鶴子 〒184-0012 小金井市中町 3-14-28 T&F : 042-383-0272

ML:t-robin@jcom.home.ne.jp

堀内武人 〒236-0052 横浜市金沢区富岡西 7-5-8 T&F : 045-772-4941

ML:hori1010@sweet.ocn.ne.jp

\*

\* 住所変更

生駒太郎 〒162-0023 新宿区西新宿 7-5-9 prospect axe The TOWER 18F

T:03-3331-4053

栗山定 〒204-0022 清瀬市松山 2-14-2 T&F : 0424-78-8757

近々、今年度の名簿をお送りします。上記も含めて細かい訂正がなされています。  
名簿をご活用ください。

\* 新聞紙上より



お尻のはさみオスの特徴

都市部の家の周りにはあまりいないのでなじみが薄いかもしれないが、初夏から秋にかけて近くの山に出かければ、いくらでも目にすることができる。大きさは2センチほど。虫の死体やキイチゴなどにとまり、お尻や羽をゆらゆらさせているので探してみしてほしい。お尻の先っぽについた小さなはさみ

ヤマトシリアゲ

虫博士が語る

02.6.25 朝日

はオスだけの特徴。突き上げて示威行動や攻撃にも使うが、交尾の時にメスをはさみつける道具にも使われる。えさの近くで待ち構えるなどして、メスが寄ってくると、はさみで捕まえ、体の下に潜り込んで交尾を迫る。

ヨーロッパにいる別の種類のシリアゲには、メスに唾液(だえき)でこねたごちそうのかたまりをプレゼントし、それを食べている間に交尾をするものもいる。これを策士と呼ぶか、紳士と呼ぶのかは見解が分かれるだろうが、ヤマトシリアゲより巧妙であるのは間違いない。(高家博成)

多摩動物公園昆虫園から

幼虫に焦点を当てた、世界的にも珍しい図鑑を、学習研究社が出版した。昆虫は一般に幼虫の時期が長いのに、大半の昆虫図鑑には成虫しか載っていないため、多くの人は庭や野山でよく見かける幼虫の種類が分からなかった。編集した同社の伊藤年一さん(61)は、学校のプールのヤゴ、野草や作物につくイモムシなど、身近な幼虫の観察に役立てば」と期待している。

(増満浩志)

ばかりではない。全体的には幼虫の外見は地味で、成虫に比べて種類を見分けにくいものが多い。そこで、類似種との違いを詳しく説明し、特徴的な部分を写真に矢印で示すなどの工夫を凝らした。単を作るタイプのハチは幼虫の判別が困難なため、巣の写真と載せて特徴を紹介した。

インターネットサイトの一つではまたたく間に300部が売り切れ、「購入者は学校や図書館が中心」とみている編集部を驚かせた。

インターネットだった。いくつかの愛好家向けサイトに、幼虫を成虫まで育てて撮影した写真が多数載っている。愛好家の協力で、間違いのない写真が「一気にそろった」。

一方、一部の甲虫やバッタ類は伊藤さん自ら幼虫を採取して撮影し成虫まで育てた。「バッタは草食で、えさがすぐ枯れるので大変だった」と伊藤さん。育てたつもりでなく、その体内に寄生していたハチが羽化して出てきてしまう失敗もあった。

苦勞の結果、昨年夏休み前を目指していた出版は約半年遅れたが、「冬も、エノキの根元に積もった落ち葉の裏にはオオムラサキなどのタテハチョウ類、朽ち木の中にはクワガタやカブトムシの幼虫を見つけれられる」と伊藤さんは話している。問い合わせは学習研究社広報室(☎03・3726・8121)へ。

# 「幼虫」134種の図鑑出版

出版されたのは「日本産幼虫図鑑」(336頁、税込み1万8000円)。トンボとチョウを中心に1341種の昆虫を取り上げ、できる限り幼虫と成虫の両方の写真を掲載した。庭で突然出くわす、のけぞりそうな毛虫も、鮮明なカラー写真で見ると意外な美しさに気付かされる。もっとも、カラフルな幼虫

## 成虫より長い生息



ナナホシテントウの幼虫 (日本産幼虫図鑑から)



意外に美しい? キドクガの幼虫 (同)



▲伊藤さん自ら育てたオンブバッタの幼虫 (同)

▶ 落ち葉の裏で越冬しているオオムラサキの幼虫 (同)



05.3.14 読売(9)

## トンボ、チョウ中心に